

昨年、ノーベル賞関連行事にあわせて開催された「ストックホルム国際青年科学セミナー」に日本から2名のうちの1名として派遣された。世界中から集まった学生との最新の科学トピックに関するディスカッションや、現地の高校生に自身が研究しているiPS細胞による認知症の原因解明についてのプレゼンテーションを行った。ノーベル賞授賞式にも出席し、生理学・医学賞を受賞した本庶佑・京都大学特別教授とも懇談。「医学における基礎研究の重要性を熱くお話しされ、感激しました」。もともとは臨床医志向が強かったが、4年生から岡野栄之教授の研究室でiPS細胞の研究を始め、今回、本庶博士の生の言葉に触れたことで、基礎研究への傾斜を深めている。

